

本資料及び資料に含まれる第三者著作物を再使用する場合、
利用者は、それぞれの著作権者より使用許諾を得なくてはなりません。

Homework 04

ことばを科学する：人間の再発見（主題別科目：思索と言語）

2013年度2学期

奥 聡

(A)

授業では、日本語の複合語 (compound) が基本的に、「主要部末端型(head-final)」であることを学んだ。たとえば、「少年野球」は野球の一種である。つまりこの複合語で全体の種類を決めているのは後ろの要素「野球」であり、前の要素「少年」は、「野球」を修飾する働きをしている。この場合「野球」がこの複合語の<主要部>であり、「少年」は<修飾部>である。逆に「野球少年」は「少年」の一種であり、この複合語の主要部となっている。

ところが、日本語の複合語には、主要部末端型に当てはまらないものの少なからずある。つまり、[A+B]という形の複合語になっているが、その複合語全体は後置要素である「B」の一種ではないものがある。そのような例をできるだけたくさん挙げなさい。

(B)

添付ファイルの文書、窪菌晴夫「新語はこうして作られる」(岩波書店：pp.148-163)を読んで、以下の問いに答えなさい。

1. 下記のうち、テキストで著者が述べていることとは異なるものを3つ選びなさい。
 - a. ブルーマウンテンが「ブルマン」となるのは「2+2」規則に従おうとしているためである
 - b. こうもり傘を「こうもり」ということで、蛇の目傘など他の傘と区別できる
 - c. 日本語の複合語短縮で、省略されるのは「携帯（電話）」「スーパー（マーケット）」のように常に後ろの要素である
 - d. 複合語短縮では、「修飾部を消して「主要部を残す」という原理が働いているらしい
 - e. 主要部が前にある言語か後ろにある言語かにかかわらず、多くの言語でアクセント弱化が起こるのは主要部である
 - f. 修飾部が残るのは、文脈から主要部の意味が分かる場合が基本である
 - g. 主要部とは、言語使用の場面で常により重要な意味情報を担う要素のことである
 - h. 語の意味を想起したり同定したりする際に、語の初めの部分の役割は重要である

(C)

言語音を記述する時に、言語学者は言語音記述専用の記号を使います。国際音標文字 (International Phonetic Alphabet: IPA) と呼ばれるもので、英語の辞書にある「発音記号」も IPA をもとにしたものです。IPA (発音記号) を使う理由は、英語でも日本語でも、通常の単語のつづり (あるいは「ひらがな」「カタカナ」) は、形式 (記号) と音が必ずしも一対一対応になっていないため、音声記述には不向きだからです。たとえば、英語の C という文字は、coin のように[k]と発音されることもあれば、nice のように[s]と発音されることもあります。下記にしたがって、このような例をできるだけたくさん探し

てみよう。

1. 上記のCという文字のように、英語の文字(または文字列)で、二つ以上の発音の仕方があるものをできるだけ挙げてみよう。(※必ず、具体例を添えて)
2. 今度は逆に、実際は1つの音なのに、英語の文字では、複数の書き方があるものをできるだけ挙げてみよう。(※必ず具体例を添えて) (例：[s]という音は、niceのようにCという文字であらわされる場合もあるし、baseのようにSという文字であらわされることもある)
3. 日本語で、一つのひらがなののに、二つ以上の異なる発音を持つものは？
4. 日本語で、一つの音なのに、二つ以上の異なるひらがなで書かれるものは？